

NZDPU の PoC FAQ

NZDPUサイトの利用 (Using the NZDPU Site)

特定の会社のデータを見つける最も簡単な方法は何ですか？

[Companies page](#) で会社を検索するか、ナビゲーションのトップで検索機能を使用できます。対象の会社を見つけたら、会社名をクリックしてその Company Profile にアクセスすると、NZDPU でその会社について利用可能な全てのデータが表示されます。

特定の会社の全てのデータを表示するにはどうすればよいですか？

各々の会社は、NZDPU において利用可能な全てのデータ（現在及び過去）を含む自身の企業プロフィールを持っています。Company Profile にアクセスするには、[Companies page](#)、[Data Explorer](#) で対象の会社を見つけるか、ナビゲーションのトップにある検索機能を使用します。

セクターや地域内及び/又は地域間で企業を比較するにはどうすればよいですか？

NZDPU の [Data Explorer](#) を使用すると、複数の会社と報告年のデータテーブルを一度に作成できます。

Data Explorer には、次の2つのモードがあります：

- Help Me Get Started モードでは、素早くかつ精選された検索機能で作業を開始できます。
- Advanced Search モードでは、追加フィルターと列選択機能が提供されます。クエリの入力や結果を失うことなく、Help Me Get Started モードから Advanced Search モードにいつでも切り替えることができます。

特定のデータフィールドの意味について詳しく知るには、どうすればよいですか？

NZDPU Data Guide には、複数の場所と形式でアクセスできます。

1. Company Profile を表示しているとき、又は Data Explorer を使用しているときに、ページの右側にある「NZDPU Data Guide」をクリックできます。各データフィールドの定義は、次の方法で表示できます。
 - a. セクション別にデータフィールドのリストを参照する
 - b. キーワード別にデータフィールドを検索する
2. NZDPU Data Guide は、[Documentation](#) ページから PDF としてダウンロードできます。

データのダウンロード方法を教えてください。

NZDPU では、ユーザーがデータをダウンロードするために NZDPU アカウントにログインする必要があります。NZDPU アカウントはどなたでも無料で作成できます。数分で無料[アカウント](#)を作成できます。

サンプル会社の全てのデータフィールドしかダウンロードできないのはなぜですか？

NZDPU の proof of concept では、将来の体系的なダウンロード機能をプレビューすることを目的として、サンプル会社について Download All Data 機能を提供しています。

NZDPUアカウントを作成するベネフィットは何ですか？ お金はかかりますか？

NZDPU アカウントを作成することで、NZDPU の API を使用するためのデータのダウンロードとアクセス トークンの生成のメリットを享受できます。NZDPU のアカウントは無料です。

WebインターフェイスとAPIには、同じ機能性と利用可能データがありますか？

はい。API は、Companies、Data Explorer、及び Company Profile の Web インターフェイスで利用可能なものと同じ機能性とデータを有しています。

tCO₂とtCO_{2e}のフィールドがありますが、違いは何ですか？

tCO_{2e} は、tonnes of carbon dioxide equivalent の略で、排出された GHG（温室効果ガス）の総排出量の測定値であり、インベントリに含まれる各 GHG のそれぞれの Global Warming Potential (GWP) 値と時間軸を考慮した場合の二酸化炭素の等価測定値で表されます。対照的に、tCO₂（すなわち tonnes of carbon dioxide）は二酸化炭素の排出量のみを反映しており、他の GHG は考慮されていません。なお、CO₂ 排出量は、1tCO₂=1tCO_{2e} のように CO_{2e} の単位で表示することもできます。

NZDPU は、特定の年の特定の排出量フィールドについて、排出量の数値を tCO_{2e} 又は tCO₂ トンのいずれか（両方ではない）で表示します。

Source列の「CDP Climate Change (Year)」とはどういう意味ですか？

Proof of concept のために CDP は、CDP を通じて公開している 382 社の直接的（スコープ 1）及び間接的（スコープ 2 及びスコープ 3）な GHG 排出量、及び GHG 排出量削減目標のデータの初期セットを提供しました。そのために、各データポイントについて、その年の関連する CDP Climate Change 質問書に基づいて source 列が入力されています。詳細については、[こちら](#)をクリックしてください。

データ値としての「N/A」と「-」の違いは何ですか？ NZDPUはnull値/欠損値をどのように表しますか？

“N/A” (“Not Applicable”)の値は、precursor データフィールドに対する報告企業の回答に基づいて、フィールドが適用されないことを示します。例えば、企業がスコープ 2 のマーケットベースの排出量を開示していないことを示している場合、関連する全てのスコープ 2 排出量フィールドの値は“N/A”になります。これは、フィールドが必ずしも企業に適用されないことを意味するものではなく、その会社が関連するセクションを開示していないことを示していることを意味します。

“-” 値は、データフィールドに値がないことを示します。これは、会社が該当するフィールドへの回答を開示していないか、データソースが NZDPU Core Data Model にこのデータフィールドを含めていない

ことを意味する可能性があります。例えば、企業がスコープ2のロケーションベースの排出量を開示しているが、使用した方法論を開示していない場合、スコープ2ロケーションベースの排出量の算定方法フィールドには“-”と表示されます。

データソースがNZDPU Data Modelの中にフィールドを含めていない場合、フィールドのソース情報は“N/A”と表示されます。

“-other”フィールド：これらのデータフィールドには、ソースのドロップダウンリストのオプションの1つとは対照的に、企業がオープンテキストで情報を開示したデータが含まれます。

1つの会社の排出量のyear-over-year (YOY) の変化をどのように解釈できますか？

会社の報告された排出量が year-over-year (YOY) で変化し得る理由は、絶対排出量の変化のほかに、多くあります。排出量の数値は、Company Profile の Methodology、Change in Calculation Methodology、及び Exclusion のそれぞれのセクションで参照可能な根幹的方法論の文脈の中で見ていくことが重要です。

多くの企業は、GHG 排出量を計算するために、増々高度で正確な方法論を使用しています。したがって、報告された排出量の YOY の変化は、データの利用可能性の向上、より高度な計算方法、又は計算に含まれる事業活動の範囲の拡大が原因である可能性があります。合併や買収などの他のイベントも、特定の会社の YOY の変動をもたらす可能性があります。

データとデータモデル (Data & Data Model)

データモデルとは何ですか？ NZDPU Core Data Modelとは何ですか？

データモデルは、データベース又は情報システムに存在するデータ要素と、それらの間の接続を視覚的に表現したものです。目的は、データ要素のセットを整理し、使用される様々なタイプのデータと、それらの保存方法と取得方法を示すことです。データモデルは、データの正確性、一貫性、効率性を保証し、ユーザーがシステム内のデータの構造を理解できるようにします。

NZDPU Core Data Model の最初のバージョンには、CDSC が推奨する直接的（スコープ1）及び間接的（スコープ2及びスコープ3）な GHG 排出量、ファイナンス・エミッション、非金融企業の GHG 排出量削減目標、及びサポートメタデータに関連するフィールドの基礎セットが含まれており、ネットゼロに向けた会社の全体的な行動を評価する上で重要です。

NZDPU Core Data Model は、計算メタデータを強調することに重点を置いた、標準化されたフレームワークでデータを構造化することにより、気候情報アーキテクチャを強化することを目的としており、データの粒度と透明性の向上、及び重要なデータギャップを特定する機能を可能にします。組織の境界、除外、方法論に関するデータなどの計算メタデータは、開示されたフィールドに関する透明性を強化します。また、異なる報告基準やフレームワークの使用による報告の不一致に関する透明性も向上します。NZDPU Core Data Model は柔軟性を考慮して設計されており、新規及び更新された気候開示基準と法域の要件に対応して強化されます。

GHG排出量インベントリとは何ですか？

GHG 排出量インベントリは、組織、国、政府、又は企業が特定の期間（通常は1年間）に排出した GHG の総排出量を測定します。NZDPU は、会社レベルでの GHG 排出量インベントリに焦点を当てています。

ファイナンス・エミッションとは何ですか？ それらはスコープ3排出量に含まれますか？

ファイナンス・エミッションは、報告企業の融資及び投資から生じる間接的な下流排出量です。これらの排出量は、[GHG Protocol Corporate Value Chain \(Scope 3\) Accounting and Reporting Standard](#) のガイドラインに従って、企業のスコープ3 カテゴリー15（投資）に該当します。ただし、これらは、報告企業が投資又は融資する企業のスコープ1、2、及び3排出量に該当する活動によって生成されません。NZDPU では、“Financed Emissions”は、スコープ3排出量のメインタブに加えて独自のタブに表示され、スコープ3排出量の残りのカテゴリーに関するデータが含まれています。この設計上の選択は、NZDPU のユーザーが、利用可能なファイナンス・エミッションデータを簡単に見つけられるようにすることを目的としています。

排出削減目標とは何ですか？ 絶対目標と原単位目標の違いは何ですか？

GHG 排出削減目標とは、組織がその事業活動に伴って発生させる GHG 排出量を定量的に設定した目標です。これらの目標は、気候への影響を軽減するための組織のコミットメントを示し、気候トランジション戦略と移行計画の基礎を形成します。

GHG 排出削減目標には様々な特徴があります。絶対目標又は原単位目標のいずれかです。絶対目標は、基準年と比較して将来の年に GHG 排出量を一定量（通常はトン単位）削減するという野心を反映します。原単位目標は、基準年と比較して将来の年に、経済又は運用指標と比較して GHG の排出量を一定量削減するという野心を反映します。これらは、組織の気候トランジション戦略に含まれる事業に応じて部分的に又は全てにわたって組織のスコープ 1、2、3 の排出量のいかなる組み合わせをもカバーすることができます。

保証（assurance）、検証（verification）、証明（validation）はNZDPUではどのように定義されていますか？

「保証」、「検証」、「証明」の定義にはマーケット内ではばらつきが見られるため、これらの用語は現在、NZDPU Core Data Model 内で同じ意味で使用されています。

NZDPU は、これらの用語を使用することによって、GHG 排出量インベントリが定量化された後に、独立の第三者が保証、検証、及び/又は証明を提供するために報告企業から要請を受けたという事実を説明しています。これらの活動は、遵守される基準や保証/検証活動を行う当事者に基づいて、様々な「レベル」の保証及び/又は検証をもたらします。例えば、ある企業は、GHG 排出量インベントリの一部についてあるレベルの保証/検証を取得し、GHG 排出量インベントリの別の部分について別のレベルの保証/検証を取得するかもしれません。

排出量と同様に、排出削減目標を報告する企業は、第三者によるその目標の証明を求めることができます。目標の証明の要件は、証明を行う当事者によって決定されます。

リステートメント（restatement）とは何ですか？

リステートメントは、企業が最初の公開後に特定のデータポイントについて報告された数値を遡及的にアップデートする場合に発生します。リステートメントは、合併、買収、組織のバウンダリーの変更、エラーなど、様々な理由で発生する可能性があります。リステートメントの有無は、Company Profile 及びデータダウンロードのデータフィールドレベルのアイコンで示されます。Company Profile のリステートメントアイコンを（該当する場合に）クリックすると、その特定のフィールドのデータ履歴を照会することができます。

NZDPU Core と ISSBやESRSやその他の法域の基準との違いは何ですか？

NZDPU Core Data Model は開示基準ではなく、開示要件を導入するものではありません。NZDPU は基準設定主体ではありません。

NZDPU Core Data Model は、[CDSC](#)の提言に沿って、排出量及び開示関連の要件と基準から構築された、基本的な会社レベルの気候トランジション関連データフィールドで構成されています。

NZDPU Core Data Model の目的は、報告範囲、除外、方法論、及び使用される仮定など、報告されたGHG 排出量と排出削減目標の計算を支える決定をよりよく理解できるように計算メタデータを含めることを通じて、開示データの粒度を高め且つ透明性を高める構造を作成する方法でデータを整理することです。

計算メタデータを含めることで、ユーザーは、報告された値の意味のある違いを理解でき、彼らのワークフローへの統合に十分比較可能と思われるものを決定するために必要な透明性を提供します。

NZDPU Core Data Model は、現在の気候開示の状況を反映し、GHG Protocol Corporate Standard、TCFD 提言、ISO 14064-1:2018、Global GHG Accounting and Reporting Standard（パートA – ファイナンス・エミッション）、最近発表された IFRS S2 Climate-related Disclosures 及び European Sustainability Reporting Standards (ESRS) など、複数の基準の特徴を組み込むことを目的としています。

時間の経過とともに、様々な法域が、地域の状況に合わせた気候開示要件を導入する可能性があります。これに対応して、NZDPU はこれらの異なる要件を反映し、Core Data Model を定期的に更新することを目指します。

数年内に基準を導入しようとしている法域がある場合、NZDPUはその新基準、又はIFRSの法域の取込み（uptake）とどのように相互作用しますか？

様々な法域における気候開示基準又は要件の進展状況については、綿密に監視していきます。NZDPU のデータモデルは、気候開示の現在の状況を反映して進化し、新しい基準や更新された基準、及び法域の要件に応じて更新されます。どの法域の要件を組み込むかを決定する際には、考慮すべきいくつかの基準があります。これらには以下が含まれます。

- 導入のタイムラインと、会社が要件に沿ってデータの報告を最初に開始する予定の時期
- 要件の対象となる可能性のある企業の数
- 対象となる地域

NZDPUについて (About the NZDPU)

NZDPUとは何ですか？

Net-Zero Data Public Utility (NZDPU) は、民間セクターの気候トランジション関連データのグローバルで一元化されたオープンリポジトリになることを目的としており、全ての利害関係者が自由に利用でき、ユーザーがネットゼロへの移行に不可欠な企業レベルのデータのコアセットに簡単にアクセスし解釈できるようにします。

グローバルなリソースとして、国連気候変動枠組条約 (UN Climate Change) のグローバル気候行動ポータル (GCAP) と統合されるように設計されています。

NZDPUがなぜ必要なのですか？

気候データの現状は、気候変動の最悪の影響を回避するために必要なペースと規模のネットゼロへの移行を達成する上で大きな課題を提示しています。

CDSCは、2022年11月に発表した「NZDPUの開発に関する提言」において、高品質で広くアクセス可能な民間セクターの気候データの欠如が、国、金融機関、非金融企業がネットゼロ目標に向けた進捗状況を測定し、移行計画を策定・実施し、気候関連の影響、リスク、機会を効果的に管理する上での障壁となっていることを明らかにしました。

企業レベルの気候データが公開されている場合でも、簡単にアクセスしたり比較したりできない場合があります。使用される方法論、レポートの範囲、及びデータの品質は大きく異なり、頻繁に進化する可能性があります。多くの場合、企業はサプライチェーン内のデータへの包括的なアクセスや、データ管理のためのテクノロジーソリューションを持っていません。気候目標に向けた進捗状況の信頼性は、特にデータが一貫した方法で報告されていない場合、ユーザーにとって評価が困難な場合があります。

様々な組織が気候トランジション関連データの透明性を高めるために行った重要な取組みを基盤に、ユーザーのニーズに応えるため高度な一貫性と透明性が保たれた一つの場所で、様々なソースをまとめた、気候トランジション関連データのグローバルで一元化されたオープンリポジトリが緊急に必要とされています。NZDPUは、この課題に取り組み、民間部門の気候データを中央リポジトリで調達し、報告するために必要なインフラを構築しながら、グローバルなソリューション及びグローバルな公共財となることを目指しています。このインフラストラクチャを構築するには、データのユーザーや作成者である様々な利害関係者からの継続的かつ強化されたコラボレーションが必要です。

NZDPU proof of conceptとは何ですか？

Proof of conceptの目的は、一般に、新しい製品又はサービスの実現可能性を実証することです。NZDPUのproof of conceptは、COP28で発表されました。NZDPUのproof of conceptは、気候トランジション関

連データのグローバルで一元化されたオープンリポジトリに向けたCDSCの提言を実現するための技術的実現可能性を証明するように設計されています。さらに、proof of conceptの範囲は、主要な特徴と機能性の初期セットを示し、将来のリリースに情報を付与するのに役立つ利害関係者の洞察を求めることです。NZDPUは、プラットフォーム全体のナビゲーションを容易にするために多様なユーザー向けに設計されており、ユーティリティが構築されている基盤であるデータモデルは、民間セクターの気候トランジション関連データの透明性を大幅に向上させるための構造と必要な粒度を作成します。NZDPUのポテンシャルを実証するため、CDPを通じて公開している382社の直接的（スコープ1）及び間接的（スコープ2及びスコープ3）のGHG排出量、及びGHG排出量削減目標データをproof of concept段階に含めています。

NZDPUはどのように進化し続けるのですか？

Proof of conceptは、グローバルで一元化されたオープンデータリポジトリの開発の規模と複雑さに見合ったものとなっており、CDSCが設定したNZDPUのビジョンを達成するための段階的かつ反復的なアプローチにおける重要なマイルストーンです。CDSCは、NZDPUの継続的な発展を監督し、メンバー、アドバイザー、関連する利害関係者への働きかけ、及び意見募集からの意見、アイデア、専門知識を求めています。また、国際機関等による既存の作業を活用し、適切な場合には、これらの機関と協議します。

NZDPUのロードマップは、コラボレーションを通じて、また気候開示の基準や要件の進化に応じて、時間をかけてより多くのデータを統合することを目的としています。第三者開示プラットフォームやイニシアチブとのコラボレーションは、冗長な提出プロセスを回避することで企業の報告負担を軽減しながら、企業のカバレッジを大幅に拡大するのに役立ちます。ユーザーからのフィードバックに基づいて、今後のリリースでNZDPUの既存の機能が強化される予定です。データモデルは、気候情報開示の最新の状況を反映して進化するように設計されており、新しい基準及び更新された基準や管轄区域の要件に応じて更新されます。NZDPUの開発の今後の段階では、企業のファイナンス・エミッション削減目標、カーボンクレジット、関連するメタデータなど、以前に推奨されていたデータ分野を組み込むことに取組みます。CDSCは、NZDPUが進展するにつれて、マーケットからのフィードバックを考慮し、移行計画の指標など、NZDPUコアデータモデルに気候トランジション関連データを追加することを推奨するかどうかを検討する可能性があります。

NZDPUにアクセスできるのは誰ですか？

NZDPUは、全ての利害関係者がネットゼロへの移行に不可欠な企業レベルのデータのコアセットに簡単にアクセスして解釈できる一元化されたリポジトリを提供することを目的としています。一般の全ての方がNZDPUにアクセスでき、無料のアカウント登録機能を利用できます。ただし、この機能はアクセスには必要ありません。

NZDPUを後押ししているのは誰ですか？

CDSC は、2022 年の提言に基づいて、NZDPU の継続的な発展を監督しています。国連のマイケル・R・ブルームバーグ気候変動対策特使の支援を受け、NZDPU のコアチームは、気候データ、製品開発、エンジニアリング、政策分野の専門家で構成されています。NZDPU の proof of concept の技術的構築は、CyBourn, Inc. 及び Google Public Sector, LLC と共に、Insomniac Design Inc. が主導するコンソーシアムによってサポートされ、厳格な提案依頼書（RFP）プロセスを通じて選定されました。

Climate Data Steering Committee (CDSC) とは何ですか？ NZDPUとの関係は？

CDSCは、世界的な気候データの課題への対応として、2022年6月にOne Planet Data Initiativeの発表を受け、エマニュエル・マクロン・フランス共和国大統領とマイケル・ブルームバーグ国連気候変動担当特使によって設立されました。CDSCは、ネットゼロへの移行に不可欠な、民間セクターの質の高い気候データへ広くアクセス可能な基盤の構築を加速し、支援することを目的としています。CDSCは、規制当局、政策立案者、基準設定主体などのグローバルリーダーを結集し、データサービスプロバイダーや市民社会組織から情報を得て、世界経済全体の気候データの課題に取り組んでいます。

2022年11月、CDSCはNZDPUの開発に関する提言を発表しました。CDSCは、UNFCCCが議長を務め、市民社会組織と気候データに関するその他の専門家で構成される気候データ専門家諮問委員会（CDEAP）と、主にデータサービスプロバイダーと慈善団体で構成されるNZDPUに専門知識を提供する技術諮問委員会（TAB）から情報を得て、NZDPUの進行中の開発を監督しています。CDSCはまた、関連する利害関係者への働きかけや意見募集を通じて、インプット、アイデア、専門知識を求め、可能な限り最も野心的で運用可能な解決策のための更なる提言を検討します。

Technical Advisory Board (TAB) とは何ですか？

NZDPUのTABは、データサービスプロバイダーと関連する慈善団体で構成されており、アドバイザーの役割でNZDPUの開発について相談しています。具体的には、TABはCDSCの2022年提言の技術的实施について定期的にフィードバックを提供する責任があります。メンバーは、CDSCの提言の実施とCDSCの目標を前進させるためのコミットメントについて助言する技術的または運用上の専門知識を持っています。

TABのメンバーは誰ですか？

- Bloomberg L. P.
- CDP
- Children' s Investment Fund Foundation
- London Stock Exchange Group (LSEG)
- Moody' s
- Morningstar
- MSCI
- S&P Global

NZDPU と UNFCCC との関係はどんなものですか？

NZDPUは、CDSCの提言に基づいて開発されており、GCAPと統合されるように設計されています。NZDPUは、国連の管轄権やアクセシビリティ要件との整合性など、将来の統合を視野に入れて、国連気候変動と緊密に連携しています。NZDPUをGCAPに組み入れることは、民間部門のコミットメントの統合強化、UNFCCCのストックテイクと承認プロセスにおける進展をサポートします。UNFCCC事務局長はCDSCメンバーであり、UNFCCCはCDSCの気候データ専門家諮問委員会の議長を務めています。

NZDPUを構築しているのは誰ですか？

2023年、NZDPUチームはCDSCの提言に沿ってNZDPUの開発を開始しました。データモデルの研究と設計、要件定義、計画、NZDPUの技術構築のための請負業者の選定と管理などを行っています。

NZDPUのproof of conceptの技術的構築は、Insomniac Design, Inc. が率いる[コア運用チームとベンダー]コンソーシアム、並びにCyBourn, Inc. 及びGoogle Public Sector, LLCによってサポートされています。

- Insomniac Design, Inc. は、デジタルトランスフォーメーション、現代化、製品開発、技術ソリューションの提供を通じて、ブランド、人々、コミュニティに持続的な影響を与えることに焦点を当てたデジタルエージェンシーです。Insomniac Designは、NZDPUのベータパイロットの設計、開発、立ち上げを主導します。
- Google Public Sector, LLC は、最新のウェブプラットフォームに対して公平かつグローバルにアクセスでき、安全で回復力のあるシステムを構築するため、クラウドインフラストラクチャとプラットフォームの専門知識を提供することで、Insomniac Design をサポートします。
- CyBourn, Inc. は、サイバーセキュリティコンサルティング、セキュリティ運用、インシデント対応を行うグローバルな企業で、プラットフォームとプラットフォームが保存するデータを保護するためのセキュリティテストと検証を提供することで、Insomniac Designをサポートします。

コアチームは、NZDPUのproof of conceptの技術的構築を提供するため、Insomniac Design, Inc. が主導し厳格なRFPプロセスを経て選ばれた組織のコンソーシアムと協力します。

NZDPUは気候変動対応にどう貢献していきますか？

あらゆるタイプの企業が、意思決定に求められる情報として高品質の情報を必要としています。企業は、ネットゼロ経済の実現に向けた製品、サービス、ビジネスモデルを開発及び/又は資金調達するためのイノベーションと能力の源となっています。企業は、自らの選択を通じてGHG排出量に貢献しています。中核事業をどのように構成するか、消費するエネルギーの種類、購入する商品やサービス、製品やサービスを使用する際に発生するGHG排出量は、データに基づいて決定されます。

アクセス可能で透明性の高いデータに基づいて、気候変動の潜在的な影響についての理解が深まるにつれて、企業や投資家は、気候変動がもたらす関連する影響、リスク、機会を管理するための戦略をより

正確に測定し、実施することができます。NZDPUは、世界の民間セクターの気候トランジションデータを一元化されたオープンリポジトリで利用できるようにすることで、ネットゼロへの移行を加速し、気候変動の最悪の影響を回避するのに役立つ意思決定を支援するために、より良いデータを利用できるようにすることができます。

NZDPUのユースケースとしてはどのようなものがありますか？

金融機関には、カーボンフットプリント及び投資に関連する気候リスクを評価し、また、主要なモデルと分析を構築するために、排出量データが必要です。政策立案者及び規制当局には、進捗を評価し政策を発展させるためにGHG排出削減量に関する信頼できるデータが必要です。企業には、スコープ3のGHG排出量を測定・開示するために、バリューチェーンに関する包括的なデータが必要です。また、同業他社と比較したパフォーマンスをベンチマークできる必要もあります。市民社会には、グローバル経済全体の企業やその他のパートナーとの協力的な進歩を促進するためのデータへのオープンアクセスが必要です。学術機関には、気候変動の進展に関する研究を行うためのオープンデータへのアクセスが必要です。

NZDPUのデータはどのように信頼することができますか？

現在、企業が報告する気候関連情報では、様々なレベルの監査、保証、検証が行われています。NZDPUのproof of conceptは、特定のデータ フィールドに対してどこで監査、保証、又は検証が実行されたかを示すフィールドを取得し、可能な場合は保証又は検証の証拠を取得できるため、ユーザーがデータの信頼性と品質を判断するための透明性が提供されます。

気候データの保証と検証へのアプローチの改善は、検証可能な気候トランジション関連データの一元化されたリポジトリとしてのNZDPUのためのCDSCのビジョンを達成するために重要です。保証と検証のアプローチが成熟するにつれて、NZDPUは、特定のデータフィールドに対して実行される保証又は検証のレベルに関するより粒度の高い詳細事項を取得し、NZDPUの気候トランジション関連データの信頼性と品質を評価するより高度な能力をユーザーに提供します。

NZDPUは、他の気候トランジション関連のデータイニシアチブとどのように相互作用しますか？

高品質で広くアクセス可能な民間セクターの気候データの不足に対処するには、全ての利害関係者が団結する必要があります。気候データの品質、利用可能性、比較可能性の向上には、様々な役割を持つ多くの利害関係者がいます。気候データの流れは複雑で、情報の作成、収集、共有、分析、使用が進むにつれて循環することもあります。

金融企業、非金融企業、政策立案者、データサービスプロバイダー、開示プラットフォームなどは、多くの場合、情報の需要と供給の両方を促進するために相互に関連しています。NZDPUは、全てのステークホルダーが自由にアクセスできるように、民間セクターの気候トランジション関連データのコアセットを1か所に集約することを目的としています。しかし、NZDPUだけでは、必要なスピードと規模でその潜

在能力を最大限に発揮することはできません。

民間セクターの気候データの利用可能性と質の向上に役立つ多くのイニシアチブがあり、NZDPUは、今後気候データの透明性を高めるために一連の組織が行った重要な作業に基づいて、様々な異なるソースからのデータを一元化することが想定されています。既存の作業を結び付けてNZDPUにデータを送信するためのコラボレーションは、冗長な提出プロセスを回避することで企業の報告負担を抑制しながら、企業のカバレッジを拡大するために重要です。成長する地球規模の気候データアーキテクチャの構成要素として、このNZDPUは、UNFCCCのグローバル気候行動ポータルと統合されるように設計されています。

NZDPUのデータは誰がどのように提供していますか？

CDPIは、CDPを通じて公開している382社の直接（スコープ1）及び間接（スコープ2及びスコープ3）のGHG排出量、及びGHG排出量削減目標データの初期セットを提供しています。このデータにより、ユーザーはNZDPUの特徴と機能性の初期セットを体験し、将来のリリースに情報を付与することに役立つフィードバックを提供することができます。

2023年6月にシンガポール金融管理局（MAS）及びシンガポール取引所（SGXグループ）と共同でNZDPUが発表したことは、NZDPUにとって初の地域データ送信コラボレーションとなりました。MASは2020年12月にProject Greenprintを立ち上げ、参加企業がGHG排出量データをNZDPUに送信できるようにします。このコラボレーションの作業は、2024年第1四半期に開始される予定です。

2024年以降も、NZDPUは2023年に発表したコラボレーションを基盤に、関連する気候トランジション関連データをNZDPUに送信するための追加のコラボレーションを発展させ、気候トランジション関連データのグローバルで一元化されたオープンリポジトリとしてのNZDPUの可能性を最大限に発揮できるよう、企業のカバレッジを大幅に拡大します。